

## ＊第27回モンテッソーリ国際会議に参加して＊

水谷純子（2期）・森山多美子（3期）

7/31～8/3の4日間、アメリカのオレゴン州ポートランドで、『自然に導かれて』というテーマで開催されました。世界中から2,200名もの参加がありました。毎回、2,000名足らずなのに、今回は参加者が多かった。それだけアメリカはモンテッソーリ教育が盛んだということでしょう、と松本静子先生のお話でした。日本からは44名、九州からは3名の参加でした。

一日目に、子どもの家を2か所と大きなスクールを見学しました。いずれも、教具の美しさ・豊かさはもちろんのこと、敷地が広いのには驚きました。特に、二番目に見学した子どもの家は、裏の広場に登れるほどの大きな木があり、その奥に畑があり(野菜の種類別に区切られていました)、両端の小屋には山羊2頭と鶏2羽が飼育されていました。子ども達は、登園すると、外でのお仕事カードを選べるように準備されていました。羨ましい限りでした！

また、講義の合間を見て、トレーニングセンターを見学する事が出来ました。

市内を走る路面電車を降りて、4～50メートル歩くとビルの間がありました。階段を上り右側に進むと3～6コースがあり、左側に進むと6～12コースがあり、その奥に0～3コースが整えられていました。また、階段を上った所は、ちょっとした図書館になっていて、夕方になると、仕事帰りの先生達が三々五々と集まり、話し込む場所になっているとのことでした。それで、このポートランドはモンテッソーリ教育が盛んで、70もの施設があるとの意味が納得できました。

最後に、通訳を通してしか参加できなかったことが残念ですが、心に強く残った講演について二つほど書きたいと思います。



小さな子どもの家



屋外の仕事の道具置き場



山羊を飼っています

### 分科会発表

#### ◆「神経科学研究とモンテッソーリ」

Dr. ADELE DIAMOND

私の専門は、**実行能力**についての研究です。

愛されている子ども達は大切にされていると知っています。良い医者は人間的によく出来ている医者です。教師も同じで、人間としてどういう人かが大切です。

子どもの教師として一番大切なのは、子どもとの関わりです。あなたの人間性は、あなたの知識で提示の通りにばっちりやっているかよりも大切なのです。

教師トレーニングはできない、なぜならそれは人に教えることではないから、自分になることだから。真のモンテッソーリ教師になるには、教えられた通りに真似をすることではない。だから、がむしゃらに内容をいくら実行しても効果は余りありません。無理にやろうとしても科学には反するということになります。

**一番の子どもとの関わりの方法は、耳を傾けてあげる事。**時間をかけて注意を向けてあげる事。どうやって話を聞いてあげるかが重要です。愛の形は、耳を傾けることで、愛の表現ができます。何か大切な事をするときに時間をかけます。それと一緒に子どもを愛している人達はその子どもに時間をかけます。

ジェリー・ブラウンの詩 「ほのお」

火を燃やすときには、あまりたきぎがありすぎてもだめ  
スペースがないといけない。

広いスペースの中で、たきぎを積むようにやる時に  
燃料のある所とないところとのバランスで  
上手に火を燃える事ができるようになるのです。

火が燃えるにはそこに空間があるからです  
そうすれば火は自分で燃える事ができる。

あまりに忙しすぎて、かまひすぎて子どもと過ごすことが出来なくなる事があります。注意してじっくり聞いてあげることです。それは実はかなり難しいことです。どうしても自分の心配ごとをして、ちゃんと聞いていない事がよくあるからです。心を傾け、言葉で言っていない所までも聞いてあげる事です。誰かからもらえる一番大切な事は、見てもらえること、聞いてもらえること、分かってもらえること。嫌われないことは嬉しいことです。

分かってもらえないと思うとき、子どもは問題を起こします。ある研究があります。離婚にならない結婚とはどんなことか。二人の違いが分かって、解決できなくても違いを理解できることです。

両親と教師の仕事は助産婦のようなものです。

老子の言葉に……**自分でする事が力になる子ども達は、自分で自信をもたなければいけない。**それには2つのやり方がある。

- 1, あなたが子どもを信じ、きっと成功すると信じてあげること
- 2, 子どもが自分でもできる課題を与えてあげること。

そして、絶対出来るとまず堅く信じる事。今できなくても出来ると思って言ってあげる。例えば、子どもは歩き始めの時転ぶ。今、転んでも絶対歩けるようになるよと言ってあげる。一人一人の子どもができるようになる。親や先生に期待してもらう力はすごい！又、教室の中での期待感はすごい影響力がある。例えば、女の子は算数ができないと思われてしまうと本当にできなくなる。なぜなら、先生が出来ないと信じてしまったから。例えば、社会心理学で固定概念があるとどうなるかの実験でテストの前に「このテストは女の子が

出来る」と前もって言うと女の子が良くできた。「こうなるべきだ」考えてあげるとそうなる。

子ども達が 21 世紀で成功するにはどんな能力を身につけるべきでしょうか。

- 発想力…自分で考えてオリジナルに問題を解決できる能力。新しいアイデアを見つける能力、新しいアプローチ別のやり方で解決できる事。
- 柔軟性…急に何かチャンスが来たとき「これだ」とつかむことができる柔軟性、最初にこうやると決めてそのままやってしまう頭の堅さではなく新しい情報を使える事。
- 認知力…例えば、一つドア開くともう一つドアが開くものです。閉じたドアばかり心配すると別のドアが開かないという事がある。
- 自制心…衝動性を押さえる力、何かする前にまず考える力、間違っただけで後悔してしまう前に考える力。例えば、人を傷つけるような言葉「あんた取ったね」という前にまず考える力。普通はそんなことを言われたら言い返してけんかになるが普通の自然の反応です、けれどもその前に考える事も必要です。そして聞いた内容に意味を見いだすこと「何故言われたか」「なぜそんな事がされたか」まず考えてみる力。
- 忍耐力としつけ力…自己規律性。つまらないことがあってもやらなければならない事はやり通す力。

これらを「実行能力」と言います。実行力は、①認知力の柔軟性、②抑制力、③現時点の記憶力。この3つにより問題を解決でき、理由づけて計画を立てるところが出来るようになります。

抑制力は、将来の学力を予測する上で、抑制力がある子どもが、学力が高くなるという事が証明されています。30年代、大人になってから抑制力があつた子どもは、健康になって、収入が高く、法律に触れる事もなく、一概に幸せな生活を送るようになっています。1000人の内の96%が32年後にも結果を出しています。抑制力のあつた子どもは健康や経済力に大きな影響力を見せています。

現時点の記憶力とは、今何かしている時に、それを覚えながらする能力です。言語に対する記憶力（何か言われて覚えて利用できる事）。読書の時にも記憶力が役に立ちます。前読んだ事ちゃんと記憶していることで読んだ内容が理解できる。理論、推進力も記憶がないと役にたたない。将来の計画を立てるにもそれが役に立ちます。例えば頭の柔らかさです、机がある。どんな使い方があるか。食事・読む・書く・横にしたらドア開かなくなる・下に避難できる、といった頭の柔軟性です。又、例えば、子どもが悪いことをしたらその意図を考える。大人として柔軟に対応する。もしかしたらいじめられた弱さが反映しているかもしれない。もしも、子どもが嫌な事があつて反応していたらそれを理解してあげるべきです。その能力はただ使うのではなく新たな問題解決に使っていく。

特に、実行能力「やりましょう」と勉強の時間にとるのではなく、それは普段のいろんな事やりながら身につけていく能力です。これは、くり返しの重要性、これは脳の前頭葉が役に立つ。前頭葉の働きは、新しい情報を取り入れて利用するのがここです。新しいやつたことのない事をするときに使う部分です。瞬間的な時を忘れて友達を叩いていけない

と言うことが頭でわかっている、ついやってしまうのは、前頭葉から記憶がぬけちゃっているからです。なので、それが**自然に態度として身につくようにするには、繰り返すことが必要**です。

アリストテレスは言いました。それは紀元前4世紀の事です。良い行いはくり返しの習慣です。人はその行いのくり返して判断されるのです。一貫性というのはエリクソンも言っているように、1万回時間の練習をした事で、今の脳より良くなることができる。

どうやって練習するか。人の手助けがあって子どもは何でも出来るようになる。今、丸太の上を歩いています。もしも、父が支えてくれていなかったら怖くてできません。でも、お父さんが後ろから支えてくれているからできるのです。

例：はめ込み円柱がある。いろんな難しい事があります。色はありません。注意するのはサイズだけ違うことを伝えてあげたら（手助けで）できるようになる。

例：子どもに何か理解してもらおうとき「2つあります」と言うだけより、「ここに2つあります」と見せてあげることが支援です。

例：4才児に絵本を見せながらお友達と一緒に話をする時。みんなお話に従って聞く役はなかなかいません、なので誰か聞き役になってもらう時は、耳の絵を渡して耳の絵を持っている子が「聞き役になろうね」という風にすれば、その子どもは聞き役ができるようになる。耳の絵が手助けになります。子ども達に練習させるときに、支援すると練習して出来るようになる。耳の絵で「今日はできた」「人の話が聞けた」というようになる。そして自信がつく。単純な実行能力が身についてきたら、支援しながら練習してください。

**やりながら学**こと。中国のことわざに、「聞いても忘れる、見たら覚える、やれば理解できる」というのがあります。ユダヤ人のヘッジル先生は、「やることでそのやることの意味がわかってくる」という言葉がある。やってみることで学習することが大切です。

## 基調講演

### ◆ 「私たちの世界、私たちの遺産」



ヴァンダナ・シヴァ：

パリで生まれ。科学・哲学はカナダで学ぶ。モンタリオ難民となり博士号とる。現在はインド在住。物理学者であり環境活動家。インド農民の権利擁護に関わり、生物多様性の大切さを多くの著書や講演を通して世界中に伝えている。

『自然に導かれて』というテーマだったこともあり、私たちの生活が如何に自然の恩恵の中にあるか、そして地球上に生存する生物、あるいは人間の「多様性は豊かさである」ことなどが様々な方向から話されました。展示物等も準備されていて、視覚的で面白く思いました。それらは、モンテッソーリ教育が自然を大切にして展開してきたことを教えていました。そして、私達は、その豊かな自然の多様性を大切に、守っていかなければならない。心と体の両面から健康な子ども達を育て、平和な未来を子ども達に託そう、ということと一致しました。

(長いので短縮させていただきます)

私は、ヒマラヤで森林を保護していた父と、教育の監査をしていた母に色々なことを学びました。その一つは、自然を愛する心です。それは、何百年も人類は間違っていたんだなということです。何かするときに、他には影響がない、関係がないといった機械的な見方を100年も続けていたのです。それが主体になり、私たちの教育も成り立ってしまっています。生きるもの、子供でも、外側から変えていくのです。私が自然から学んだものは、全てはみんな連結されており、連帯があるということです。

40年前、森林がなくなり、川がなくなったことがあった。原因は木の伐採です。木は山を保護している。木を切ると、山が崩れる。そうやって川が洪水になってしまう。森林は薪の材料ではないということです。それから学んだことは、森林は保護しなければならないということです。研究してみれば、たくさんのお金がかかる作業が、全て自然によって作られているということだったのです。

農業をする人の話ですが、種を保護することはどの国でも、自然に従っていかなければいけません。農業は命を繰り返して行って、健康な肥料を作らなければなりません。なのに、今は有害な食料があります。

一つだけでも有害遺伝子を種の中に入れて、それで自分が種の創生者となれ、特許が取れる。それが全てに影響してくる。95%のアメリカのトウモロコシは一部の企業に所有されています。インド木綿産業協会もモンセントが所有しています。

この20年の間、遺伝子組み換えによって蜂などの花粉交換をする虫が減った。蝶は花粉を食べて死んでいる。土壌の研究をしているが、4年間で遺伝子組み換えの農地の20%が砂漠化している。有害な食べ物や除草剤によって、細菌が増え、家畜の胎児を殺したり、蜂や蝶が減少する。そして、自然を破壊するだけではなく、人間にも有害なのです。種の独占で、日照りにも耐える我慢強い農民が、自殺するようになったのです。なぜなら、種の使用量が一年に4回も上がり、8,000倍に上昇したのです。種の独占により、インドの農民の自殺者は2万8千人にもものぼるようになりました。

自然から学んだこと——①これからの問題は、子ども達に、食料は神聖なんだと気づいてもらうこと。②一番正しい行動は、栽培すること。よい食べ物を提供すること。悪いことは、商業的農業で、悪い食べ物を出していくこと。③自然には無駄がない。全て何でも皆丸ごと、どこかに役立っていく。④自然は繰り返し新たになる。⑤自然は水をリサイクルしてくれる。

自然の創造性は戦争を生み出しません。さっき、エドワード(AMI教師養成トレーナー)が言っていましたが、子どもは敵になる前にまず友達になろうとする本能があります。それと同じで、地球の民主化、連携のある自由。サンスクリット語ではこんな言葉があります。“人類みな家族”という言葉です。人類だけではなく全ての生き物も、家族の一員なのです。多様性は豊かさです。多様性があるから、家族を認めること。モンテッソーリ博士から沢山学ぶことが多いです。

母なる地球という概念ですが、子ども達が一番積極的にしてくれる。なぜなら、地球が母だということを知っているから。生きた地球というビジョンをもっと育てていきたい。

皆さんに、特に教育者の皆さんに希望を。地球のため、子どものためにも希望を。

将来の希望を失っている人がたくさんいる。どんな子どもでも、一人一人が希望を持つ

てもらふことが私達の責任です。それは子ども達自身が、種の不思議で一つになること。

希望の庭からでも、小さな種が来年はもっと沢山のものをもたらしてくれること。自然は尽きない。だから、希望を子ども達が学ぶこと。一緒に自然を作り出し、そして気づくこと。子ども達がもらうだけでなく、自分からあげる人になること。そういう小さなことで、草木を育てること。農園で作業して研究する。

教育を小さい子ども達に導いてもらふのです。子ども達について行きましょう。

母なる地球という概念ですが、子ども達が一番積極的にしてくれる。なぜなら、地球が母だということを知っているから。生きた地球というビジョンをもっと育てていきたい。

皆さんに、特に教育者の皆さんに希望を。地球のため、子どものためにも希望を。

将来の希望を失っている人がたくさんいる。どんな子どもでも、一人一人が希望を持ってもらふことが私達の責任です。それは子ども達自身が、種の不思議で一つになること。

希望の庭からでも、小さな種が来年はもっと沢山のものをもたらしてくれること。自然は尽きない。だから、希望を子ども達が学ぶこと。一緒に自然を作り出し、そして気づくこと。子ども達がもらうだけでなく、自分からあげる人になること。そういう小さなことで、草木を育てること。農園で作業して研究する。

教育を小さい子ども達に導いてもらふのです。子ども達について行きましょう。